



パレスチナ YWCA 支援

ニュースレター Vol.30

2009年3月

発行:日本 YWCA ビジョン 2015 委員会

〒160-0008 新宿区三栄町 6-12-2F

TEL 03-5367-1872 FAX 03-5367-1873

E-mail:office-japan@ywca.or.jp

2008年12月27日から始まったイスラエル軍のパレスチナ自治区ガザへの攻撃は、病院や学校などへの空爆および市街地などでの戦闘で一般市民を巻き込み、3週間で死者は1300人、負傷者は約5300人にのぼりました。こうした状況に対して、詩集『ヒロシマ連祷』の石川逸子さんが書かれた詩を石川さんの許可を得、掲載します。

ガザ・いま

石川逸子

ガザ いま 通学途上の子どもたちは 瓦礫の下敷きに
ガザ いま 窓ガラスを破られた暗いアパートで ひとびとは凍え
ガザ いま イスラーム大学の校舎は崩れ落ち 病院もねらわれ
ガザ いま 消防署が国連事務所が 難民キャンプの警察署が 爆撃され
ガザ いま 救急車も炎上し 野菜市場は空爆され

ガザ そのひとたちはなにをした
(先祖伝来の土地を追われ 逃れてきただけ)
ガザ そのひとたちはなにをした
(入植者に四〇%の土地も奪われ ひしめき暮らしているだけ)
ガザ そのひとたちはなにをした
(出口・入口をふさがれ 袋のネズミにされているだけ)
ガザ そのひとたちはなにをした
(道路もおりおり封鎖され 仕事にも学校にも行けないだけ)

ガザ いま その地に イスラエル機は無差別爆撃をおこない
ガザ いま その地に イスラエル戦艦はたえまなく砲撃をくわえ
ガザ いま その地に イスラエル戦車はわがもの顔に進撃し
ガザ いま アメリカ議会は そのイスラエルを支持し

ガザ いま その地で 夜もひとびとは逃げまどい
ガザ いま その地で もがきながら息絶えた ひとびと
ガザ いま その地で 両腕をもがれた 子どもたち
ガザ いま その地で 葬列はたえまなく

ガザ ガザ ガザ..
ガザ その地はいま 水も電気も絶えかけ 食糧も危うく
ガザ その地でいま ながれ ながれつづける 無辜の血
ガザ...ガザ..

パレスチナの人々と連帯する イスラエルの女性たち

2009年2月4日

「Machsom (ヘブライ語で「軍事検問所」) Watch」のメンバーであるイスラエル人の女性が書いたオバマ大統領宛ての手紙を紹介します。「Machsom Watch」は、イスラエルによるパレスチナの占領に反対するイスラエルの女性たちが2001年に設立しました。西岸やエルサレムの検問所で人権侵害の監視や状況を報告しています。

オバマ様

私のこの胸の痛みを和らげてください
皆、あなたは世界を変えるだろうと言います
どうかお願いします、
ここにきて私の生活を変えてください
あなたの手で

イスラエルに来て
他人を支配して生きる生活から、
私たちを解放してください
ここにきて私たちに、すでにはっきりしている、
文書にも明記された、
適切な、なすべき事をなさせてください
ここにきて、私たちを占領から解放してください

毎朝、早起きをする必要をなくしてください
検問所に行き、監視し、嘆き悲しむために
もう早起きなんかしたくありません

国家を護るためだと信じ込まされて、
5歳の子どもにライフルを向ける
19歳足らずの若者を
日々目にする必要をなくしてください

私の娘たちが30分シャワーを浴びるたびに
ある家族は一方で、
遠くの井戸からコココーラのボトルに水を汲み、
ロバの背にのせて運んでくることを
考える必要をなくしてください

私がスーパーマーケットのレジの列に並ぶとき
一方で、通学や親しい人を訪ねたり、
病院や仕事に行くために
日々、莫大な数の人々が
検問所に並ばなくてはいけないことを
考える必要をなくしてください

妹が
出産のために病院に大急ぎで駆け込んだときや
夫がきちんと救急車で病院に緊急搬送されたとき
一方で、出産を控えた女性や心臓病の人たち、
負傷者たちが、
許可の無い救急車から許可有りの救急車に
わざわざ移されるということ
考える必要をなくしてください

私が通りで軍服に身を包んだ兵士を見るとき
彼は昨晚何をしたのだろうか、
どの家に武器を持って押し入ったのだろうか、
微笑んだだけの少年をハウラの裏通りで
殴りつけたのはこの兵士だろうか
疑わずにすむようにしてください

イスラエル軍が6人のテロリストを殺害したと
ラジオでニュースを読み上げる
キャスターの得意げな声をききたくありません
殺された6人には名前もなく、母親もいませんでした

オバマ様

この秋、私はパレスチナ人たちの
オリーブ収穫の手伝いに行きませんでした
都合がつかせませんでした
それは努力が足りない、良心の呵責に苦しまずに
すむようにしてください

外出先から無事帰宅すること自体が
命がけの仕事である人々がそばにいる中、
私がささやかな一日を過ごし仕事に励むことを
罪だと思わずにすむようにしてください

パレスチナYWCAから (アニュアルレポート2007)

2.青少年のプログラム

パレスチナYWCA2007 年度アニュアルレポート (年間活動報告)より、現在行われている活動・プログラムの内容を少しずつお届けします。第2回は、青少年を対象に行われているプログラムです。

青少年のプログラム

「子どもたちや若者たちは、私たちの未来であり希望です。若い女性たちは、明日の母であり、未来のメンバーであって、この運動を将来に向かって進めるトーチ(たいまつ)を送り届けるのです」。

* 難民キャンプの保育園

YWCA は、ジャラゾーンとアガバジャベールを中心とした二つの難民キャンプの保育園で、子どもたちに、遊び、学び、成長するための安全で教育的な環境を継続して提供しています。

今年(2007~2008年)、ジャラゾーンでは3~5歳の子どもたち100人が、またアガバジャベールでは80人が在園しています。



<http://www.ywca-palestine.org/Locations/Aqbet%20Jaber.htm>

教師たちは2月に、物語を上手に話す能力を高めるためのトレーニングコースを受講しました。二つの保育園では、1年を通じていろいろな活動や特別な行事を計画し、入園式や定期健康診断のほか、子どもたちは、教師が演じる舞台劇・ヨルダン川西岸地区のいろいろな街への親子揃っての遠足・動物園の見学などを楽しみました。またエリコの教育局が主催した写生大会に参加。私たちは、悪化する状況故に、当たり前の子どもの時期を奪われてしまった子どもたちのために、喜び、楽しむためのきっかけを懸命に作り出そうとしました。

どうか私を苦しめ続けている
この痛みを和らげてください
私は子どもたちや友人との時間、
仕事といった日々の生活をも
心から楽しむことができません

それは常に私の心に、
目隠しをされ縛られた少年の姿や
検問所で荷物を搬送する大型コンペアで
頭を打たれた幼い女の子の
残像が焼きついているからであり、
盛り土やコンクリートの囲いで大勢の人々の生活や
移動が邪魔されたままだからです

オバマ様、来てください
そしてあなたの手で私たちを救ってください
私たちを私たち自身(=イスラエル)から救うことで
あなたがイスラエルの友人ではないと
非難されるなら、
どうか進んで友人にはならないでください
私たちには皮肉にも、私たちを武装し、
私たちの悪事を正当化し、
国際刑事裁判所への訴追を逃れさせてくれる
友人たちがすでにいるのですから

私たちの本当の友人になってください、そして
私たちを私たち自身から救ってください
世界の建前のためではなく、
私という一人の人間のためにしてください
そうしたら私は平和を手にできます
それがあなたの義務なのです
私は神を信じていないけど、
あなたにかけて祈りました

私はあなたが大統領に当選した日に
この手紙を書きました
それは、イスラエルがガザ地区を攻撃する前、
イスラエルのメディアが炎に包まれるガザを目に、
歓喜を上げるずっと前のことです

(編集責任: 日本 YWCA
翻訳協力: 春井多美恵)

* サマーキャンプ

YWCA での青少年活動の定番になっているサマーキャンプは、エルサレム、エリコ、そしてジャラゾーン難民キャンプで、2007 年も実施されました。

エリコでは、7 月に実施されたサマーキャンプに、6 ~ 13 歳の少年・少女たち 60 人が参加。水泳・写生・工作・スポーツなど定番の活動のほかに、啓発活動の講座、特に、ボランティア活動に関するセッションを盛り込みました。参加した子どもたちが、エリコの街路の清掃を自発的に行い、自分たちの街を清潔に保つ決意を示しました。取り立てての障害は、エリコではこのような活動に利用できるスペースが限られていることと、7月の厳しい暑さが、屋外での活動の多くを妨げてしまうことです。

エルサレムでは、6 月中旬から 7 月末までのサマーキャンプに、6 ~ 13 歳の子どもたち 55 人が参加しました。子どもたちは、いつもの図工の授業のほかに、バレーやモダンダンス、ヒップホップなどいろいろな種類のダンスを教えてもらいました。国内のあちこちの史蹟や観光地を巡る遠足が、週毎に実施されました。

今年は、ナザレ市当局の協力の下に別のサマーキャンプも実施され、参加した子どもたちは、Galilee 地区で、この国の素晴らしい地域の見学とハイキングに 4 日間を過ごしました。



<http://www.ywca-palestine.org/>

ジャラゾーン難民キャンプでは、YWCA のサマーキャンプは、胸がわくわくするイベントです。少女たちにとっては、難民キャンプの囲いの外側で行なう勉強と遊びへの出入り口のようなものなのです。今年は、13 ~ 17 歳の少女たち 70 人が、工場や会社見

学などのスタディツアーを中心としたサマーキャンプに参加し、製品が製造ラインでどのように作られるかを見学しました。いつものように、水泳や遠足などのほか、子どもたちにとって楽しみな催し物や図工の授業などが行われました。

* 創造者としての若者

フォード財団によって設立され、Naseej を通じて「セーブ・ザ・チルドレン」によって運営されたこの若者のための活発なプログラムは、スウェーデン YWCA やカトリックからの寄付による支援を得て、今年も継続されました。2007 年の第 1 四半期の主たる活動は、この体験をさまざまな創造的な手段によって記録に残すことを中心に展開されました。

エリコでは、2007 年の活動に 40 人の若者が参加し、15 のセッションが設けられ、青年に関連した問題を討議しました。Naseej の体験は参加した若者によって、CD やポスター・カレンダーの形で記録されました。閉会のセレモニーは、演劇のセッションで準備されたドラマが行われました。セレモニーには、YWCA のメンバーや地域社会の代表のほかに、パレスチナ交渉団の団長の Saeb Erikat さん・エリコ市長・参加した若者たちの両親などが出席しました。

エルサレムでは、50 人の若いメンバーがこのプログラムに継続的に参加し、啓発活動・演劇や生活技術のトレーニングなど 160 時間のセッションに出席しました。彼らは、エルサレムの旧市街地やその周辺、破壊された村々やエリコなどへの 5 回のスタディツアーにも参加しました。また、社会事象に関する 30 分のドラマを作るとともに、彼らの体験をドキュメンタリー映画やドラマ番組の形で記録に残しました。

ラマラでは、今年、13 ~ 17 歳の若者たち全部で 70 人が、ジャラゾーンキャンプ、Birzeit、Ain Arik、Tayben、Aboud やラマラ市の 5 つの地区で新しいユースグループを結成しました。各グループは、グループ作りとリーダーシップ・コミュニケーション技術についてトレーニングを受けました。さらに、母国の豊かな歴史と文化を学ぶために若者たちの史蹟ツアーや遠足が行われました。

ジャラゾーンセンターでは、難民キャンプの少女25人が空手のトレーニングを始めました。このユニークなプログラムは、当初、地域の人々が、少女には相応しくないと考えていたのですが、大成功だったことが判明しました。熱心な少女たちが、休むことなくセッションに出席し、自分自身を守り、自尊感情と人格を養う術を学びました。このトレーニングは若者たち自身をエンパワーすると同時に、女性の役割に対する地域社会の認識を変えました。Birzeit では、若者たちが、1年を通じて練習を続けて、パレスチナの伝統的舞踊である Dabkeh を演じました。

(翻訳協力:後藤幸男)

オリーブの目・芽・Me

「ところでガザってどこなの？」

2008年の年末から2009年の年始にかけて、多くの新聞や報道で「ガザ空爆」という4文字がよく流れていました。当たり前のように流されていく情報が、起きている物事の事実をどれくらい伝えられているのだろう、という疑問をある友人とのやり取りで感じました。

その友人はパレスチナのことをまったく知らない人でした。偶然、私がガザ空爆のキャンドルアクションに参加する日に会い、そのことを話す機会があり話していると、彼女から「ところでガザってどこなの？」と素朴に聞かれました。パレスチナのこと、イスラエルのこと60年以上にわたって繰り返し広げられている様々なことを伝えました。話し終えた後、彼女は「本当に知らずにいると、情報だけがただ流されていってしまうね。ガザのこと少し違う風に情報を感じられる気がするな」と言いました。

「パレスチナ」や「ガザ」という文字だけでは伝わらないことがたくさんある、そんな視点を大切に思い直したいと強く感じました。

ところで、皆さんはガザがどこなのか、ご存知ですか？

(名古屋YWCA「オリーブの樹」メンバー・会員

瀬尾さとみ)

植樹されたオリーブの木が抜き去られ、 土地からの立ち退きを迫られています！

2009年2月20日

2009年2月19日、オリーブの木キャンペーンが支援する農家の Abu Firas さんより、2月15日に2009年オリーブ植樹プログラム(9日目)の参加者によって植樹されたオリーブの木が、イスラエル軍によって全て抜き去られた、という報告が JAI (Joint Advocacy Initiative) に届きました。また彼は、土地を明け渡すよう、軍から立ち退き命令を受けています。

詳しくは、JAI ウェブページ(英文)にあるニュース「Farmer threatened and planted trees' uprooted」(<http://www.jai-pal.org/index.php>)をご覧ください。



2009 植樹プログラム 9 日目の様子

遠い日本にいる私たちにも、 いま、ここで出来ることがあります。

オリーブの木キャンペーン

1口3000円でオリーブの木1本を贈ることができます。

* 寄付者には証明書が発行され、植樹された場所にはプレートに寄付者の名前が刻まれます。

< 振込先 >

(郵便振替) 日本YWCA

口座番号: 00170 - 7 - 23723

* 通信欄に「オリーブの木」とご記入ください。

* パレスチナ YWCA による証明書発行のため、振替用紙にお名前のふりがなまたはローマ字表記を必ずご記入ください。



パレスチナ YWCA



パレスチナ YWCA



東京 YWCA 武蔵野センター

ガザに光を★

世界各地で、
日本各地で、
アピールしています。

08年12月27日から開始されたイスラエル軍のガザ攻撃に対し、パレスチナYWCAから「沈黙していないで、ガザの大虐殺を止めるために行動してください」との呼びかけが、また世界YWCAからは「中東の平和を祈って1月8日にキャンドル・ピジルを全世界で行おう」と

の呼びかけがあり、フィジー、ペルー、ヨルダン、ブラジル、ガイアナ、デンマーク、ノルウェーなど世界中のYWCAが、ガザ地区の戦闘での犠牲者を追悼し、平和を求めるキャンドル・ピジルを1月8日に行いました。

日本でもこの日、各地YWCAが、イスラエルに対して即時停戦・ガザ地区の封鎖の解除・占領の中止を求める活動を行いました。

沖縄YWCAはキリスト教センターでキャンドル祈禱会を開催しました。東京YWCA武蔵野センターも祈禱会を開催。大阪YWCAは阪急梅田 HEP 前にてサイレントアピールを実施、キャンドルの灯に多くの人たちが目をとめメッセージカードを読んでくれました。京都YWCAは三条河原町のアーケード入口でキャンドル・ピジルを実施。神戸YWCAは JR 三宮駅で「イスラエルはガザ市民を殺すな！まちかどアピール」を行い、ガザ市民の虐殺に抗議するチラシを配布しました。

この日以降も、長崎YWCAは9日にガザへの軍事攻撃中止の申し入れを他団体と共に市政記者室で発表。平塚YWCAは15日平塚駅前でパレスチナピースウォークを実施。函館YWCAは17日に街頭での募金活動を、また2月14日にはガザの女性と子どもたちを支援するために、チャリティコンサートとキャンドルアピールを行いました。

日本YWCAは1月10日にNGO12団体で、即時停戦を求める「ガザに光を！」を開催、ピースパレードに約1500人、シンポジウムには約500人の参加がありました。2月18日には「ガザ封鎖解除を求める署名」呼びかけ10団体で、ガザ緊急院内集会を開催。国会議員11名、市民約120名が集まり、ガザ封鎖解除に日本政府が積極的に働くことの要望を外務省担当官に伝えました。



京都 YWCA



大阪 YWCA



神戸 YWCA